

【終了刷り】

朝日新聞本紙東京本社 10月 1日 (降版日: 10月 1日) 13版 2外

kmz tm4660 (1069130)

第3報知用紙

享月

日

癸月

辰月

2012年(平成24年)10月2日

火曜日

13版

国際

14

中世のブラにも乙女心

オーストリアの古城に「最古」

中世の女性も「勝負下着」に胸をどきめさせたのだろうか。オーストリアの古城が今夏、15世紀に作られた「世界最古のブラジャー」を見つけたと発表した。女性のおしゃれ心をくすぐるレースや刺繍があしらわれていたが、決して特権階級だけの楽しみというわけではなかったようだ。

レースや刺繍、サイズ調節も

アルプスの険しい峰々が連なるオーストリア西部チロル地方。その中心市インスブルックの南にある古城で、2008年夏、改装作業中に3階の床下から大量の布きれや革靴に交じってブラジャーが出てきた。インスブルック大学の考古学研究チームが分析したところ、全部で4種類あった。放射性炭素を使った年代測定の結果、1440〜85年ごろのもものと判明し、大学は「現存する最古のブラジャー」と発表した。現代ブラジャーの起源には諸説あり、18世紀後半にフランスで考案された説や、1910年代に米国人



オーストリアで見つかった15世紀のブラジャーの構造を説明するインスブルック、ユルツェンツェの研究者。ブラジャーが発見された古城「オーストリア西部、インスブルック大学提供

女性が特許を取得した説などが知られている。だが、コレットが広まる以前の14〜15世紀の書物に「乳房を収める袋付きのシャツ」などの記述があるだけで、実態はよく分かっていなかった。女性下着の歴史に詳しいウィーン博物館のレジーナ・カルナー部長(56)は「実物が出てきたことが驚き。下着の歴史を書き換えるかもしれない」と言う。現代のブラをどうしようとさせる形や機能も、研究者をうならせた。四つ指のブラのうごき(うごき)は、シャツの胸部に乳房を収めるカップを縫い合わせた形。残りの二



ドイツ、オーストリア、イタリア、ウィーン、インスブルック

同じ城に男性用パンツ

現代の「ひもパン」そっくり

同じ城の床下からは、ブラジャーと一緒に、15世紀のもともみられる男性用のパンツも一つ見つかった。腰の部分を細いひもで結ぶ、現代の「ひもパン」そっくりだ。専門家によると当時のパンツは、股間を強調するため局部を隠す布をできるだけ小さくするのがはやりだったという。他方、女性用のパンティーは床下からは出てこなかった。中世の時代、欧州の女性は若春婦などを除いて、下半身に下着をつけていなかったと考えられている。パンツは「力の象徴」で、家長である男性の特権とされたからだという。

マニア注目 復元検討

「最古のブラ」発見の波紋は、世界に広がった。インスブルック大学には発表直後から、米国のオーストラリア、ドイツなど各地からの「最古のブラを復元して身につけたら」というパロディの型紙がつけられたという。問い合わせが殺到。ほとんどが個人で、中世の生活スタイルや文化にあがられる「マニア」が多いという。大学側はブラの復元を検討しており、実現すれば、城の近くの博物館でオリジナルと一緒に展示する計画だとしている。

このニュースに気をもんでいるのが、ドイツ西部シュトゥットガルト市のパトリック・シュタット地区だ。1914年、同地区のコレット工場が世界に先駆けてブラジャーの大量生産を始めたことから、「ブラ発祥の地」を自負する。今年2月から地元博物館で「ブラジャー展」を開催し、2014年の100周年イベントに弾みをつけようとしていた矢先に「最古のブラ」が現れた。地元博物館のマックス・ドムニット館長は「変わ



世界発 2012
起源は古代ギリシャや古代ローマまでさかのぼるとされ、イタリア南部で見つ

かった毛織物に、胸に布を巻いた女性の姿が描かれている。ただしカップや肩ひもはない。16〜18世紀以降、欧州を

60歳以上、2050年20億人

2050年には世界の60歳以上の人口が20億人を超え、15歳未満の人口を初めて上回る。この予測を国連人口基金(UNFPA)が1日、明らかにした。衛生状態の改善などで、社会保障制度の整備が遅れる発展途上国でも高齢化の速度が増しており、報告書は各国に社会保障サービス

国連人口基金予測

UNFPAのオショティメ事務局長が国際高齢者デーのこの日報告書で21世紀の高齢化を60歳以上で発表。それによれば、2050年の世界人口は12億現在で、8億1千万人で、全人口の約12%。今後10年以内に10億人に達し、50年には20億人を超えて世界人口の22%を占めるようになる。予測した。将来の高齢者人口が圧倒的に多いのはアジアで、50年で12億5千万人になる見通し。うち世界1の人口大国である中国では、人口の33.9%にあたる4億3900万人が60歳以上になる。インドも3億2300万人で、人口の19.1%を占めるようになる。60歳以上が30%以上を占める国は現在、31.6%の日本だけだが、50年には韓国やタイなどを含む65カ国が増える。また、現在の高齢者の3人のうち2人が途上国で暮らしているが、50年には5人に4人近くになる。対応として報告書は、年金制度や手厚な介護サービスを受けられる保健・医療サービスが欠かせないと指摘している。(小野真実)

特派員メモ

すれ違う思い

◆エルサレム

広島を原爆を経験した被爆者4人が、非核特使としてイスラエルを訪問した。ナチス・ドイツによるホロコーストの犠牲になったユダヤ人の慰霊施設「ヤド・バシェム」では、ホロコースト生還者で面会、双方が戦争がもたらした悲惨な体験を語り合い、聞かされた胸をつかれた。多くのイスラエルメディアも取材に訪れた。だが、訪問団の一人は嘆息した。「イスラエルメディアは、イスラエルの核問題の質問ばかり。私たちは世界から核兵器をなくすために訴えたいのに」。イスラエルの消滅を公言するイスラエルが核兵器を持てば、「第2のホロコースト」につながることを心配するイスラエル人は多い。一方で、イスラエル人が中東で唯一の核兵器保有国であることは公然の秘密だ。だが、安全保障に関する事柄として同国メディアの報道には検閲が入り、核廃絶が公然と議論されることはない。非核特使は、イスラエルの国会議員らと面会したほか、各地で市民向けの被爆証言会を開き、世界からの被爆証言を訴えた。その願いが、多くのイスラエルの人々に届くことを願う。(山尾有紀恵)